

ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

こぶし

第121号

2006年5月22日発行

発行責任者：横井正人

編集：機関紙局

特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座

北海道函館市陣川町 122-172

TEL/FAX: 0 1 3 8 - 5 4 - 2 8 5 9

年 3 回 発行

E-mail:kobusiza@m19.alpha-net.ne.jp

http://www.aa.alpha-net.ne.jp/kobusiza

主な内容

- (1) 第8回通常総会開かれる
- (2) 一般公演演目の完成へ
- (3) 記念公演の成功に向けて
- (4) 後援会総会開かれる



こぶし座会館で行われた第8回通常総会

新たな船出の一年目

一般公演新作演目をもって

北海道内に漕ぎ出す一年に！

― 第八回通常総会開かれる ―

四月二十九日・こぶし座会館にて

「NPOこぶし座二〇〇六年度通常総会」が社員十五名の参加で開かれました。

開会に先立ち、理事会より社員総数についての報告があり、総数は十九名であることが確認されました。

はじめに、横井理事長が「昨年創立四十周年を迎えた喜び、取分け祝賀会での多くの

方々からの励ましは、四十一年度に歩み出す大きな力となつた。

今年の方針の大きな柱は、

① 一般公演演目の完成

② 新入座員の獲得

③ 基金の運動展開

この三つである。これらを実現するため、座員一人一人が自覚と責任をもちみなさんと

ともに向かいたい」と挨拶しました。

第一号議案「二〇〇五年度事業活動報告」では三名の発言がありました。

四十周年記念として出版された「北に、生きる心むすんで」(編・著 國田修司)の

販売状況について、担当の橋本かおりから、「たくさんの方たちが購読、また預かり広めてくれている」と現状の報告があり、今年度の販売目標数についても意見が出されました。

「伝統芸能の継承、作品創造について」横井正人が取材活動の中から、青森県岩木町

『登山ばやし』について、「東北から津軽海峡を渡り北海道を築いてきた人達が持ち込んだ芸能の故郷を訪ね、保存会の方たちとふれあつたこと

で、北海道にいただけではわからない伝統の深さを感じてきた。神の宿る山として二〇〇年もの長い間信仰され、

津軽に生まれ育つた人たちのシンボルとして心のよりどころである岩木山、そのお山参詣の時に囃されるお囃子に込められた願いや愛情を伝えていきたい」と発言しました。

「公演部活動について」松岡智恵美が、「新編成での公演部づくりなど、一人一人が

自分の課題に果敢に挑み、そ

れぞれが果たすべき役割や責任の自覚を高めてきた。また

体調不良、身内の不幸など精神的に苦しい状況が続く、その中でも父親が息を引き取るのを看取つたその日に公演に

出発、葬儀にも関われないという痛みを抱えながら公演に責任を持つと必死で向かつた田畑のことにふれ、様々な困難と向き合いながらお互いの精一杯の力で支え合い、要求しあつて進んできたことで厚い信頼と団結を勝ち取つた。四十一年目、情熱と勢いを持って前進したい」と発言し励ましの拍手が起りました。引き続き、第二号議案「二〇〇五年度収支決算報告」が行われ、金城公雄氏による丁寧な監査報告の後、両議案とも合わせて承認されました。

第三号議案「二〇〇六年度事業活動計画」では二名の発言がありました。

「制作活動について」中尾雄児が、道や市町村の財政赤字が住民の負担を増やし、高齢化・過疎化に拍車をかけ生活不安を生み出している。また、教育委員会の予算減による『巡回小劇場』の実施回数減少や芸術鑑賞教室の中止校が増えているなど、道内を回つての様子を伝えながら、「様

々な危機感を抱えた厳しい今だからこそ自分たちの町を元気にしたい、心を通い合わせたい、そんな思いの人たちが地域づくりの一環として座を迎えてくれている。今、座は

どんな活動をすべきなのか、北海道を元気にする運動を支援者と共につくってきたい」と発言しました。

「伝統芸能の継承、作品創造について」計良正子が、函館での記念公演に向けての思いを演奏に託しますと発言し、公演部が『秩父屋台ばやし』を演奏。気合の方が勝る全力を出しきつた演奏に会場は「がんばれよ」の声援につつまれ議案が承認されました。

第四号議案「二〇〇六年度収支決算報告」では基金の運動の現状も報告され、もっと多くの人たちに運動を広げようという提起とともに提案通り承認されました。

第五号議案「役員を選任」では再任で承認されました。

函館での公演に向け二十代の若者が五人も加わった明るく活気ある実行委員会の動きを力に、今年度も活動を前進させることを確認して総会を終了しました。

一般公演・新作演目の完成へ

記念公演を前に、

一人ひとりが新しい自分をめざして…。

昨年の40周年記念祝賀会の席で、「新たな歩み」を宣言した私たちの想いを、いよいよ舞台を通して表現する時が来ました。「北に生きる心結んで」歩んできた座の歴史を受け継ぎ、これからも北海道にしっかりと根を張り生き続けるための舞台です。



公演活動の合間を縫って少しずつ取材を重ね、各地の保存会の方々に太鼓や踊りを教えていただきながら準備を進めてきました。

地元には伝わる芸能に深い愛情と誇りを持ち、数百年に渡る伝統を受け継ぎ今に伝えている保存会の皆さんとの出会いは、私たちに大きな勇氣と展望を与えてくれました。

それぞれに芸能の歴史をひもとくと、そこに生きた人々の暮らしや時代が見えてきます。生活をのけ込んでいた

芸能は、祖先の供養や五穀豊穡・無病息災・家内安全の願いや感謝の気持ちなどさまざまな想いが織り込まれ、祭りとなって地域の繋がりを深め、厳しい生活を生き抜く大きな

支えになっていたので。保存会の皆さんの叩く太鼓や踊りは、しなやかで美しく、力強く躍動感に溢れ、まさに時代を生きた人たちの息遣いが聞こえてくるように、活き活きとして心に迫ってきます。

時代は変わっても、「より良く生きたい、幸せになりたい」と願う人間らしい要求は、芸能に託され生き続けていることを実感しました。

回を重ねるごとに保存会の皆さんとの交流も深まり、芸能を通して人間同士の絆が結ばれる中で、歴史を重ね親から子へ孫へと連綿と伝えられてきた地元の芸能が、私たちの手にも受け渡されることになりました。喜びと責任が入り交じった嬉しさです。

「伝統に根ざし現代に生きる創造を」めざそうとする座にとって、学びの原点はこの結びつきの中にこそあるのではないだろうか。そう思い始めています。

今までにも経験してきた数々のことが、41年目を歩もうとする今の私たちには、すべてが新鮮にひとつひとつが宝物のように心に染み込んでくるのです。

創立したばかりのこぶし座が「あんたら下手だけど、わたしの胸にドンとくる」と失業対策事業の現場で働く人達に励まされ、「下手でいいわけはないが、なによりも人の心を打つ感動こそが大事なんだ。カンパは応援の心だ。働く人々の応援こそ私たちの宝なのだ。」と教えられ、活動してきた歴史は私たちの中に引き継がれ、「こぶし座に今、何が求められ、必要なかを考える原点になっています。

この40年間という時代の移り変わりはあまりにも早く、そして大きなものです。確かに経済的に発展し、人々の暮らしは豊かになりました。

しかし、その反面、「都市と農漁村」「中央と地方」という点であらゆる格差が一層拡大してしまっただように思え

てなりません。

この間、日本の高度経済成長を支えた北海道の農林水産業の衰退は、若者から生まれ育った土地で暮らすことを奪い、過疎化とともに地域の崩壊を生み出しました。地域の崩壊は家族の崩壊を意味し、子ども人間形成にも大きな影響を及ぼしています。全国平均を上回る失業率の高さはそのことを物語っています。

「よりグローバルな時代へ」と聞かされるたびに、その言葉が人間性を失った経済活動の標語のようにむなしく響く今の時代…。人間として当たり前の、生きる、働く、暮らすという日常の生活が脅かされ、先の見えない閉塞感と社会不安の中で必死に生きる現代人にこそ、芸能に込められた「命の躍動」が必要であり、「人間らしく生きる勇氣」が求められていると思うので

記念公演まで、あとひと月に迫りました。

第一部は道南の歴史にとつて関わりの深い東北の津軽や南部の芸能と、神楽とともに生きる漁師の半生を描いた漁師の昔語り、第二部は道南江差の芸能と日本の代表的な芸能である獅子舞とお囃子で構成した約1時間30分の公演。



創立40周年記念公演

■演目■

- 三本柳さんさ踊り
- 登山ばやし
- 津軽の手踊り
- 北の漁師の昔語り～神楽とともに～
- 江差祭りばやし
- 網起しとソーラン節
- 海鳴り太鼓
- 寿獅子
- 秩父屋台囃子

実行委有志による「江差のもちつきばやし」

日時：6月20日(火) 19:00開演
 会場：函館市芸術ホール
 主催：こぶし座公演を成功させる会

「生きる喜び、働く誇り、明日への夢」を語り合える舞台をめぐして！

演技者だけでなく、座員一人ひとりの新しい自分への挑戦の日々が続いています。

【創演部・計良正子】



創立40周年記念公演の成功に向けて

この度の公演を主催する「成功させる会」代表・

市川団四郎さんからの熱き寄稿と、

「成功させる会」の最新の動きを紹介します。

「こぶし座」の舞台を多くの人達に

市川団四郎

日増に春の訪れを感じる頃と成りました。

皆様には健やかにお過ごしのことと存じお慶び申し上げます。

さて、兼ねてより小生が応援を致し、数々と舞台を楽しませて頂いています民族歌舞団「こぶし座」が創立40周年を迎え、ここに記念公演を催す事と相成り、実行委員の一人としてご挨拶をさせて頂きま

す事、大変に嬉しく思いおります。

私が「こぶし座」の舞台を拝見致しましたのは25年程前の事です。芸達者で見事な舞台に函館にこの様な人達がいるのかと、驚きと共に大変感激を致しました。それ以来度々稽古場にもお邪魔を致し、その熱心さと舞台に馳せる情熱にはさすがプロの集団は素晴らしいとつくづく感じさせられ、その成果の程は観客を魅了し感動を与え心に響く...、何よりもお客様が会場に足を運びたく成るのは、踊る事の喜びが唄う事の楽しさ演じる事の嬉しさをひしひしと感じさせてくれる笑顔です。

この様に素晴らしい「こぶし座」の舞台を、多くの人達にご覧頂きたいと願いをこめてご挨拶と致します。

40年の真向な努力と、記念公演の為に厳しい練習を重ねた舞台を、ご覧頂けたら幸いに存じます。

『成功させる会』
これまでの経過と
最新の動き

今回の記念公演は、こぶし座後援会を柱にしながらも、より広範な人達に取り組んでもらえるようにと実行委員会形式でつくられました。代表には、市内はもとより全国的にも精力的な活動を展開している「市川団四郎」さんが就いて下さり、頼もしい「会」の体制が固まりました。

三月十七日に第一回目の集まりをもって28名で旗揚げし、現在までに4回の実行委員会が開催されています。

初回の集まりの中で、40周年なんだし、どうせやるなら

委員も40人で...と。

集まることに数も増え、ついに40名となったメンバーのうち5名が20代の若者で、「会」全体が盛り上がりつつあります。その熱気が取り組みの随所に反映して、配券活動では現在104力所で千二百六十枚、いよいよ集約の方に重点を移すことになりました。

最近の活動の中心は、大小13枚の看板製作と張り出しで、連日連夜15人の先鋭なる老若男女(?)が大奮闘しています。また、「もちつきはやし」の練習も始まりました。残り一ヶ月...、当日の会場

で、たくさん笑顔に会えることを楽しみに、成功に向かって仲間と共に全力でGO!!

【市川団四郎さん紹介】(函館市文化賞受賞祝賀会の基より一部転載)

・昭15 岡崎市にて「市川市蔵劇団」を主宰する歌舞伎役者・市川市蔵の次男として誕生、五歳で初舞台を踏む

・昭46 函館で活躍する初代市川団四郎の長女と結婚

・昭48 初代の名跡を継ぎ、「二代目市川団四郎(成田家)」を襲名

・平元 第11回「初春巴港賑」の舞台演出・指導を担当併せて函館市内の子供たちによる「子ども歌舞伎絵本大日記」を発表し絶賛を博す

・平2 「函館子ども歌舞伎(加羅先代萩)」旗揚げ公演

・平6 文化団体協議会より「白鳳章」受章

・平16 文化庁主催「全国ふるさと歌舞伎フェスティバル(NHKホール)」に函館子ども歌舞伎が招聘され大好評

・同 文化団体協議会より「青麒麟」受章

・同 文化・スポーツ振興財団より「益田喜頓賞」受賞
北海道新聞社より「第四回北のみらい奨励賞」受賞
函館市より「函館市文化賞」を受ける
市川夫妻による創作新舞踊「市松流」創設・旗揚げ公演

2006年度 公演活動

<一般公演>

- 6月20日 函館市(芸術ホール)
- 11月14日 深川市/空知音鑑(予定)
- 11月15日 滝川市/空知音鑑(予定)
- 11月17日 赤平市/空知音鑑(予定)
- 11月18日 沼田町/空知音鑑(予定)
- 11月19日 南幌町(農村環境改善センター)
- 11月21日 余市町(中央公民館)
- 11月23日 浦臼町(農村センター)
- 11月25日 共和町(町民センター)
- 2月25日 江差町(文化会館大ホール)
- 3月2日 札幌市(ちえりあホール)
- 3月11日 音更町(文化センター)

<学校公演>

- 7月4日 共和町(巡回)
- 7月11日 積丹町(教育委)
- 7月18日 中札内村(教育委)
- 8月22日 函館市白尻小学校
- 8月23日 函館市東小学校
- 8月25日 滝川市第二小学校

- 8月28日 赤井川村(巡回)
- 8月29日 様似町(巡回)
- 8月30日 様似町
- 9月1日 標津町(巡回)
- 9月4日 網走市潮見小学校
- 9月5日 網走市紋別小学校
- 9月8日 函館市港小学校
- 9月11日 札幌市美しが丘小学校
- 9月12日 札幌市伏古小学校
- 9月14日 函館市柏野小学校
- 9月19日 室蘭市母恋・朝陽小学校
- 9月28日 浜中町(巡回)
- 9月29日 南富良野町(巡回)
- 10月3日 中頓別町(巡回)
- 10月4日 紋別市(巡回)
- 10月26日 横浜市希望ヶ丘小学校
- 10月27日 横浜市白根小学校
- <保育園・幼稚園公演>
- 7月12日 札幌市琴似あやめ保育園
- 7月14日 札幌市はこぶね保育園

- 8月30日 様似町(教育委)
- 10月6日 札幌市ひがしなえぼ幼稚園
- 11月2日 札幌市いらっく幼稚園
- 12月11日 札幌市前田保育園
- 12月14日 札幌市東月寒保育園
- 12月15日 札幌市北の星東札幌保育園
- 12月18日 札幌市美晴幼稚園
- 12月19日 八雲町マリア幼稚園
- 1月15日 函館市青い鳥保育園
- 1月19日 函館市つぐみ保育園
- 2月7日 札幌市星置ピノキオ保育園
- 2月8日 札幌市北の星東札幌保育園
- 2月9日 札幌市勤医協ぼくら保育園
- 2月13日 八雲町国の子保育園

<講座講習ほか>

- 7月4日 札幌市はとポッポ保育園
- 7月8日 函館市高砂保育園/8~9
- 11月3日 上富良野町ワークショップ
- 11月4日 上富良野町文化祭

第十七回 こぶし座後援会総会 開かれる

「二〇〇六年度後援会総会」が、四月二三日こぶし座会館において二三名の参加で開かれました。

三浦恒雄会長の「六月二〇日の記念公演がとても楽しみです。八〇〇名の席が埋まるよう、皆さんのご協力をお願いします。後援会員拡大も今年は大目標をたてました。皆さんの力で達成させこぶし座をさらに応援していきましょう。」の挨拶からスタート。

座から横井理事長が挨拶し、『記念公演』を成功させて秋から全道各地で公演する。・新入座員を迎える。・経営基盤を確立する為の「こぶし座基金」の取組を進める。以上の三つを柱に向かつていくと話しました。

続いて議事に入り、活動のまとめや決算報告、そして今年の方針を討議しました。事務局から「四〇周年記念公演を成功させましょう」が提案され「記念公演は会員を増やす絶好の機会、受付に入会コーナーを設けて呼びかけよう」などの意見が出され、「記念公演に力を注ごう！」「会員を増やし、こぶし座の

支援の輪をさらに大きくして行こう！」という参加者一人一人の暖かい気持ちでヒシヒシと伝わってくる総会でした。

総会後はお花見交流。「記念公演実行委員会」の若手女性三名も参加し、ジンギスカンを囲みながら歌をうたい、太鼓を叩いて楽しいひとときを過ごし「記念公演を成功させよう！」とみんなの気持ちがひとつになりました。

【二〇〇六年度の計画】

- ・創立四〇周年記念公演
六月二〇日(火)
午後七時開演
函館市芸術ホール
- ・応援バザー
七月三〇日(日)
- ・秋のレクリエーション
今年はずい！
日程・場所など検討中



第21回 日本の踊り・太鼓講座シリーズ

函館・太鼓講座(中級)

【特別開講のご案内】

初級講座修了生はじめ、太鼓実践経験者などから要望の強かった中級の講座。この夏、6年ぶりに開講します！

お申し込みは、TEL/FAXで…。お急ぎ下さい!!

内容：三宅島木遣り太鼓 定員：12名 受講料：一般 5,000円
 日時：7月29日(土) 18:00~21:30
 30日(日) 9:00~17:00 ※会場は、両日とも「こぶし座会館」です。



座員大募集

君もこれからの時代の主人公に！

自然豊かな北の大地を舞台に、
楽しい仲間達と共に
じっくり歩んでみませんか!?

演技部員/スタッフ/制作部員

【18歳以上の健康な方】

—経験は問いません—

※研修期間一年間

(食住保証等、生活上の援助制度有り)

【第3回】

札幌講座のお知らせ 笛・太鼓講座(初級)

どちらも定員まで、残りわずか！

日時：7月1日(土) 18:00 ~
 2日(日) 9:00 ~
 受講料：一般 5,000円
 会場：あゆみ幼稚園(伏古)

第20回 日本の踊り・太鼓講座シリーズ

函館講座のお知らせ

太鼓・笛講座(初級)

太鼓講座：太鼓の基本～「ぶち合わせ太鼓」
 笛 講座：笛の基本～「さくら」まで
 日時：7月23日(土) 18:00 ~ 21:30(笛/21:00 まで)
 24日(日) 9:00 ~ 17:00(笛/10:00 から)
 受講料：大 人 5,000円
 中高生 3,000円
 会場：こぶし座会館



編集後記

この陣川町に本部会館を建設してから、今年で丁度10年を迎える。初めての春を迎えた時、あたり一面が「こぶし」の花で覆われていることを知り、感慨深い想いで胸打られたことを思い出す…。

毎年、四月中旬ともなると、会館を包む景色も「こぶし」の白で始まり、山桜の淡いピンクとなり、そして柔らかな緑から深い緑へと移ろいで行く。今年は、地元の桜の開花がいつになく遅く、「こぶし」の花にいたっては、とうとう白を愛でることなく終わってしまった。自然界の不思議とはいえ、残念な限りである。

創立四十周年記念公演も、いよいよ一ヶ月後に迫ってきた。六月二十日芸術ホール。曆のうえでは初夏となるのだが、少しばかり時期遅れでも、時代の春を告げる想いで「こぶし座」の華を、満面の笑みとともに会場いっぱい咲かせてみたいと考えている。



(徹)